

試 験 地	受 験 番 号	氏 名

1 建学(前)

受験地変更者は上欄のほか、本日の受験地と仮受験番号を記入してください。

本日の受験地..... 仮受験番号 仮一.....

令和 2 年度

1 級建築施工管理技術検定試験

学科試験問題（午前の部）

令和 2 年 10 月 18 日(日)

[注 意 事 項]

1. ページ数は、表紙を入れて 21 ページです。
2. 試験時間は、**10 時 15 分から 12 時 45 分**です。
3. 問題の解答の仕方は、次によってください。
 - イ. [No. 1]～[No. 15]までの **15 問題**のうちから、**12 問題を選択し、解答**してください。
 - ロ. [No. 16]～[No. 20]までの **5 問題**は、**全問題を解答**してください。
 - ハ. [No. 21]～[No. 33]までの **13 問題**のうちから、**5 問題を選択し、解答**してください。
 - ニ. [No. 34]～[No. 45]までの **12 問題**のうちから、**5 問題を選択し、解答**してください。
 - ホ. [No. 46]～[No. 50]までの **5 問題**は、**全問題を解答**してください。
4. 選択問題は、解答数が**指定数を超えた場合、減点**となりますから注意してください。
5. 解答は、別の**解答用紙**に、**[HB] の黒鉛筆か黒シャープペンシル**で記入してください。
それ以外の**ボールペン・サインペン・色鉛筆**などを使用した場合は、**採点されません**。
6. 問題は、**四肢択一式**です。正解と思う肢の番号を次の例に従って塗りつぶしてください。
それ以外の場合は、採点されないことがあります。

マーク例 ● 塗りつぶし

7. マークを訂正する場合は、消しゴムできれいに消して訂正してください。
8. 解答用紙は、雑書きしたり、汚したり、折り曲げたりしないでください。
9. この問題用紙は、計算等に使用しても差し支えありません。
10. この問題用紙は、午前の部の試験終了時刻まで在席した場合に限り、持ち帰りを認めます。
途中退席する場合は、持ち帰りできません。

※ 問題番号 [No. 1] ～ [No. 15] までの 15 問題のうちから、12 問題を選択し、解答してください。

[No. 1] 換気に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 換気量が一定の場合、室容積が小さいほど換気回数は多くなる。
2. 給気口から排気口に至る換気経路を短くするほうが、室内の換気効率はよくなる。
3. 全熱交換器を用いると、冷暖房時に換気による熱損失や熱取得を軽減できる。
4. 換気量が同じ場合、置換換気は全般換気に比べて、換気効率に優れている。

[No. 2] 日照及び日射に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 同じ日照時間を確保するためには、緯度が高くなるほど南北の隣棟間隔を大きくとる必要がある。
2. 夏至に終日日影となる部分は永久日影であり、1 年を通して太陽の直射がない。
3. 北緯 35 度付近で、終日快晴の春分における終日直達日射量は、東向き鉛直面よりも南向き鉛直面のほうが大きい。
4. 昼光率は、全天空照度に対する室内のある点の天空光による照度であり、直射日光による照度を含む。

[No. 3] 音に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 人間が聞き取れる音の周波数は、一般的に 20 Hz から 20 kHz といわれている。
2. 室内の向かい合う平行な壁の吸音率が低いと、フラッターエコーが発生しやすい。
3. 自由音場において、無指向性の点音源から 10 m 離れた位置の音圧レベルが 63 dB のとき、20 m 離れた位置の音圧レベルは 57 dB になる。
4. 音波が障害物の背後に回り込む現象を回折といい、低い周波数よりも高い周波数の音のほうが回折しやすい。

[No. 4] 木質構造に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 枠組壁工法は、木材を使用した枠組に構造用合板その他これに類するものを打ち付けることにより、壁及び床を設ける工法で、枠組壁は水平力と鉛直力を同時に負担することはできない。
2. 2階建の建築物における隅柱は、接合部を通し柱と同等以上の耐力を有するように補強した場合、通し柱としなくてもよい。
3. 燃えしろ設計は、木質材料の断面から所定の燃えしろ寸法を除いた断面に長期荷重により生じる応力度が、短期の許容応力度を超えないことを検証するものである。
4. 構造耐力上主要な部分である柱を基礎に緊結した場合、当該柱の下部に土台を設けなくてもよい。

[No. 5] 鉄筋コンクリート構造に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 床スラブは、地震力に対し同一階の水平変位を等しく保つ役割を有する。
2. 柱のじん性を確保するため、短期軸方向力を柱のコンクリート全断面積で除した値は、コンクリートの設計基準強度の $\frac{1}{2}$ 以下とする。
3. 壁板のせん断補強筋比は、直交する各方向に関して、それぞれ 0.25 % 以上とする。
4. 梁に貫通孔を設けた場合、構造耐力の低下は、曲げ耐力よりせん断耐力のほうが著しい。

[No. 6] 鉄骨構造に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 梁の材質を SN 400 A から SN 490 B に変えても、部材断面と荷重条件が同一ならば、梁のたわみは同一である。
2. トラス構造は、部材を三角形に組み合わせた骨組で、比較的細い部材で大スパンを構成することができる。
3. 節点の水平移動が拘束されているラーメン構造では、柱の座屈長さは、設計上、節点間の距離に等しくとることができる。
4. 構造耐力上主要な部分である圧縮材については、細長比の下限值が定められている。

[No. 7] 地盤及び基礎構造に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

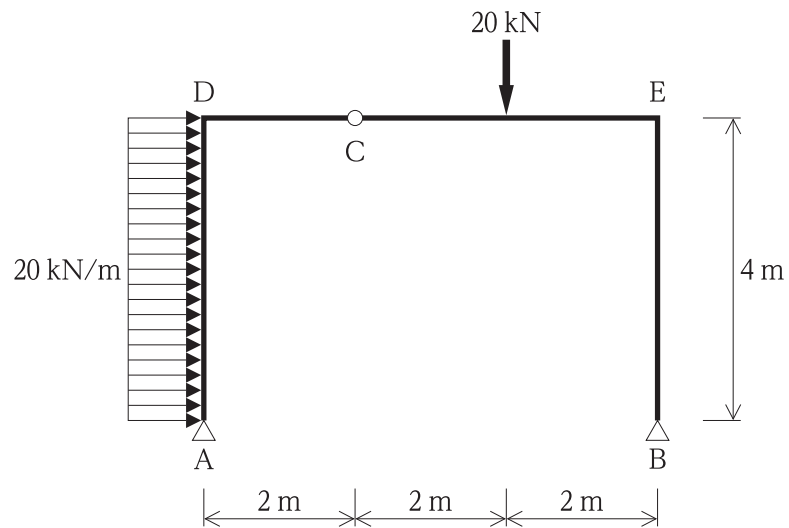
1. 直接基礎における地盤の許容応力度は、基礎荷重面の面積が同一ならば、その形状が異なっても同じ値となる。
2. 直接基礎下における粘性土地盤の圧密沈下は、地中の応力の増加により長時間かかって土中の水が絞り出され、間隙が減少するために生じる。
3. 圧密による許容沈下量は、独立基礎のほうがべた基礎に比べて小さい。
4. 基礎梁の剛性を大きくすることにより、基礎の沈下量を平均化できる。

[No. 8] 床の構造計算をする場合の積載荷重として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 店舗の売り場の積載荷重は、 $2,900 \text{ N/m}^2$ とすることができる。
2. 集会場の客席が固定席である集会室の積載荷重は、 $2,900 \text{ N/m}^2$ とすることができる。
3. 倉庫業を営む倉庫の積載荷重は、 $2,900 \text{ N/m}^2$ とすることができる。
4. 百貨店の屋上広場の積載荷重は、 $2,900 \text{ N/m}^2$ とすることができる。

[No. 9] 図に示す 3 ヒンジラーメン架構の AD 間に等分布荷重が、CE 間に集中荷重が同時に作用したとき、支点 A 及び B に生じる水平反力 (H_A , H_B)、鉛直反力 (V_A , V_B) の値として、正しいものはどれか。

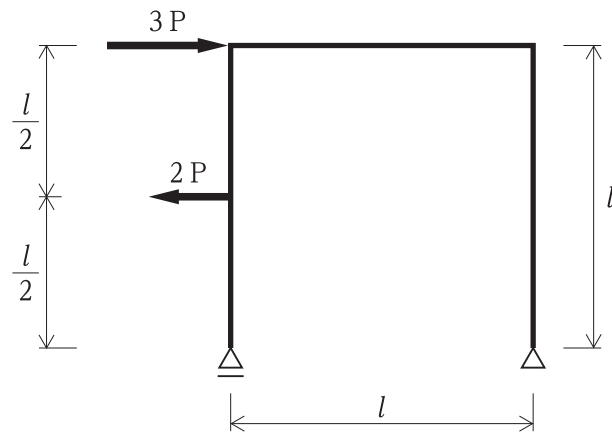
ただし、反力は右向き及び上向きを「+」、左向き及び下向きを「-」とする。



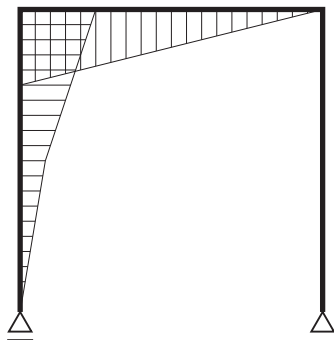
1. $H_A = -40 \text{ kN}$
2. $H_B = +40 \text{ kN}$
3. $V_A = -20 \text{ kN}$
4. $V_B = +20 \text{ kN}$

[No. 10] 図に示すラーメン架構に集中荷重 $3P$ 及び $2P$ が同時に作用したときの曲げモーメント図として、正しいものはどれか。

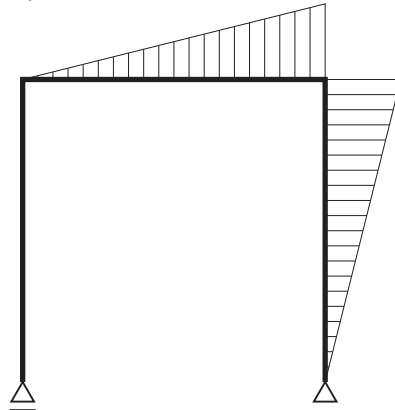
ただし、曲げモーメントは材の引張り側に描くものとする。



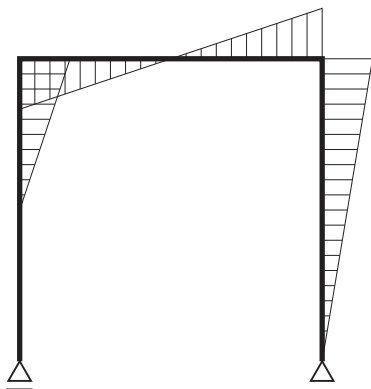
1.



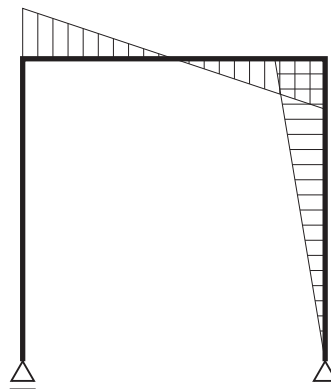
2.



3.



4.



[No. 11] 鋼材に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. TMCP 鋼は、熱加工制御により製造された鋼材で、高じん性であり溶接性に優れた鋼材である。
2. 低降伏点鋼は、モリブデン等の元素を添加することで、強度を低くし延性を高めた鋼材である。
3. 鋼材の溶接性に関する数値として、炭素当量 (C_{eq}) や溶接割れ感受性組成 (P_{CM}) がある。
4. 鋼材の材質を変化させるための熱処理には、焼入れ、焼戻し、焼ならしなどの方法がある。

[No. 12] 左官材料に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. せっこうプラスターは、水硬性であり、多湿で通気不良の場所で使用できる。
2. ドロマイトプラスターは、それ自体に粘性があるためのりを必要としない。
3. セメントモルタルの混和材として消石灰を用いると、こて伸びがよく、平滑な面が得られる。
4. しっくい用のりには、海藻、海藻の加工品、メチルセルロース等がある。

[No. 13] JIS（日本産業規格）のサッシに規定されている性能項目に関する記述として、**不適当なもの**はどれか。

1. スライディングサッシでは、「気密性」が規定されている。
2. スイングサッシでは、「水密性」が規定されている。
3. スライディングサッシでは、「ねじり強さ」が規定されている。
4. スイングサッシでは、「遮音性」が規定されている。

[No. 14] 建築用シーリング材に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. シリコーン系シーリング材は、表面にほこりが付着しないため、目地周辺に撥水^{はっすい}汚染が生じにくい。
2. 2成分形シーリング材は、施工直前に基剤と硬化剤を調合し、練り混ぜて使用する。
3. 弾性シーリング材は、液状ポリマーを主成分としたもので、施工後は硬化し、ゴム状弾性を発現する。
4. シーリング材のクラスは、目地幅に対する拡大率及び縮小率で区分が設定されている。

[No. 15] 内装材料に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 構造用せっこうボードは、芯材のせっこうに無機質繊維等を混入したうえ、くぎ側面抵抗を強化したものである。
2. ロックウール化粧吸音板は、ロックウールのウールを主材料として、結合材及び混和材を用いて成形し、表面化粧加工したものである。
3. けい酸カルシウム板は、石灰質原料、けい酸質原料、石綿以外の繊維、混和材料を原料として、成形したものである。
4. 強化せっこうボードは、両面のボード用原紙と芯材のせっこうに防水処理を施したものである。

※ 問題番号[No. 16]～[No. 20]までの5問題は、全問題を解答してください。

[No. 16] 構内アスファルト舗装に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 盛土をして路床とする場合は、一層の仕上り厚さ 300 mm 程度ごとに締め固めながら、所定の高さに仕上げる。
2. アスファルト混合物の敷均し時の温度は、一般に 110℃ 以上とする。
3. アスファルト混合物の締め固め作業は、一般に継目転圧、初転圧、2 次転圧、仕上げ転圧の順に行う。
4. アスファルト舗装の継目は、既設舗装の補修、延伸等の場合を除いて、下層の継目の上に上層の継目を重ねない。

[No. 17] 避雷設備に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 高さが 15 m を超える建築物には、原則として、避雷設備を設けなければならない。
2. 指定数量の 10 倍以上の危険物を貯蔵する倉庫には、高さにかかわらず、原則として、避雷設備を設けなければならない。
3. 受電部システムの配置は、保護しようとする建築物の種類、重要度等に応じた保護レベルの要求事項に適合しなければならない。
4. 鉄骨造の鉄骨躯体は、構造体利用の引下げ導線の構成部材として利用することができる。

[No. 18] 空気調和設備に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. ファンコイルユニット方式における 2 管式は、冷水管及び温水管をそれぞれ設置し、各ユニットや系統ごとに選択、制御して冷暖房を行う方式である。
2. パッケージユニット方式は、小容量の熱源機器を内蔵するパッケージ型空調機を、各空調区域や各室に設置して空調を行う方式である。
3. 定風量単一ダクト方式は、還気と外気を空調機内で温度、湿度、清浄度を総合的に調整した後、ダクトにより各室に一定の風量で送風する方式である。
4. 二重ダクト方式は、2 系統のダクトで送られた温風と冷風を、混合ユニットにより熱負荷に応じて混合量を調整して吹き出す方式である。

[No. 19] 消火設備に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 屋内消火栓設備は、建物の内部に設置し、人がノズルを手に持ち、火点に向けてノズルより注水を行い、冷却効果により消火するものである。
2. 閉鎖型ヘッドのスプリンクラー消火設備は、火災による煙を感知したスプリンクラーヘッドが自動的に開き、散水して消火するものである。
3. 泡消火設備は、特に低引火点の油類による火災の消火に適し、主として泡による窒息作用により消火するものである。
4. 連結散水設備は、散水ヘッドを消火活動が困難な場所に設置し、地上階の連結送水口を通じて消防車から送水して消火するものである。

[No. 20] 数量積算に関する記述として、「公共建築数量積算基準（国土交通省制定）」上、**正しいもの**はどれか。

1. 根切り又は埋戻しの土砂量は、地山数量に掘削による増加、締固めによる減少を見込んで算出する。
2. 鉄筋コンクリート造のコンクリート数量は、鉄筋及び小口径管類によるコンクリートの欠除を見込んで算出する。
3. 鉄骨鉄筋コンクリート造のコンクリート数量は、コンクリート中の鉄骨及び鉄筋の体積分を差し引いて算出する。
4. 鉄筋の数量は、ガス圧接継手の加工による鉄筋の長さの変化はないものとして算出する。

※ 問題番号[No. 21]～[No. 33]までの13問題のうちから、5問題を選択し、解答してください。

[No. 21] 乗入れ構台の計画に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 乗入れ構台の支柱と山留めの切梁支柱は、荷重に対する安全性を確認したうえで兼用した。
2. 道路から乗入れ構台までの乗込みスロープは、勾配を $\frac{1}{8}$ とした。
3. 幅が6mの乗入れ構台の交差部は、使用する施工機械や車両の通行の安全性を高めるため、隅切りを設置した。
4. 乗入れ構台の支柱は、使用する施工機械や車両の配置によって、位置を決めた。

[No. 22] 土工事に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. ヒービングとは、軟弱な粘性土地盤を掘削する際に、山留め壁の背面土のまわり込みにより掘削底面の土が盛り上がる現象をいう。
2. 盤ぶくれとは、掘削底面付近の砂地盤に上向きの水流が生じ、砂が持ち上げられ、掘削底面が破壊される現象をいう。
3. クイックサンドとは、砂質土のように透水性の大きい地盤で、地下水の上向きの浸透力が砂の水中での有効重量より大きくなり、砂粒子が水中で浮遊する状態をいう。
4. パイピングとは、水位差のある砂質地盤中にパイプ状の水みちができて、砂混じりの水が噴出する現象をいう。

[No. 23] ソイルセメント柱列山留め壁に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 多軸のオーガーで施工する場合、大径の玉石や礫が混在する地盤では、先行削孔併用方式を採用する。
2. 掘削土が粘性土の場合、砂質土に比べて掘削攪拌速度^{かくはん}を速くする。
3. H形鋼や鋼矢板などの応力材は、付着した泥土を落とし、建込み用の定規を使用して建て込む。
4. ソイルセメントの硬化不良部分は、モルタル充填や背面地盤への薬液注入などの処置を行う。

[No. 24] 場所打ちコンクリート杭地業に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. リバース工法における2次孔底処理は、一般にトレミー管とサクシヨンポンプを連結し、スライムを吸い上げて排出する。
2. オールケーシング工法における孔底処理は、孔内水がない場合やわずかな場合にはハンマーグラブにより掘りくずを除去する。
3. 杭頭部の余盛り高さは、孔内水がない場合は50 cm 以上、孔内水がある場合は80 ～ 100 cm 程度とする。
4. アースドリル工法における鉄筋かごのスペーサーは、D 10 以上の鉄筋を用いる。

[No. 25] 異形鉄筋の継手及び定着に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 梁の主筋を柱内に折曲げ定着とする場合、仕口面からの投影定着長さは、柱せいの $\frac{3}{4}$ 倍以上とする。
2. D 35 以上の鉄筋には、原則として、重ね継手を用いない。
3. 大梁主筋にSD 390 を用いる場合のフック付定着の長さは、同径のSD 345 を用いる場合と同じである。
4. 腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150 mm 程度とする。

[No. 26] 鉄筋の機械式継手に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. ねじ節継手とは、鉄筋表面の節がねじ状に熱間成形されたねじ節鉄筋を使用し、雌ねじ加工されたカップラーを用いて接合する工法である。
2. 充填継手とは、異形鉄筋の端部に鋼管（スリーブ）をかぶせた後、外側から加圧して鉄筋表面の節にスリーブを食い込ませて接合する工法である。
3. 端部ねじ継手とは、端部をねじ加工した異形鉄筋、あるいは加工したねじ部を端部に圧接した異形鉄筋を使用し、雌ねじ加工されたカップラーを用いて接合する工法である。
4. 併用継手とは、2種類の機械式継手を組み合わせることでそれぞれの長所を取り入れ、施工性を改良した工法である。

[No. 27] 型枠の設計に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 支保工以外の材料の許容応力度は、長期許容応力度と短期許容応力度の平均値とする。
2. コンクリート型枠用合板の曲げヤング係数は、長さ方向スパン用と幅方向スパン用では異なる数値とする。
3. パイプサポートを支保工とするスラブ型枠の場合、打込み時に支保工の上端に作用する水平荷重は、鉛直荷重の5%とする。
4. コンクリート打込み時の側圧に対するせき板の許容たわみ量は、5 mm とする。

[No. 28] 構造体コンクリートの調合に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. アルカリシリカ反応性試験で無害でないものと判定された骨材であっても、コンクリート中のアルカリ総量を 3.0 kg/m^3 以下とすれば使用することができる。
2. コンクリートの単位セメント量の最小値は、一般に 250 kg/m^3 とする。
3. 細骨材率が大きくなると、所定のスランプを得るのに必要な単位セメント量及び単位水量は大きくなる。
4. 水セメント比を小さくすると、コンクリート表面からの塩化物イオンの浸透に対する抵抗性を高めることができる。

[No. 29] コンクリートの運搬及び打込みに関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 高性能 AE 減水剤を用いた高強度コンクリートの練混ぜから打込み終了までの時間は、原則として、120 分を限度とする。
2. 普通コンクリートを圧送する場合、輸送管の呼び寸法は、粗骨材の最大寸法の2倍とする。
3. コンクリート棒形振動機の加振は、セメントペーストが浮き上がるまでとする。
4. 打継ぎ面への打込みは、レイタンスを高圧水洗により取り除き、健全なコンクリートを露出させてから行うものとする。

[No. 30] 高力ボルト接合に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 締付け後の高力ボルトの余長は、ねじ1山から6山までの範囲であることを確認した。
2. ねじの呼びが M 22 の高力ボルトの1次締付けトルク値は、 $150 \text{ N} \cdot \text{m}$ とした。
3. ねじの呼びが M 20 のトルシア形高力ボルトの長さは、締付け長さに 20 mm を加えた値を標準とした。
4. 高力ボルトの接合部で肌すきが 1 mm を超えたので、フィラープレートを入れた。

[No. 31] 大空間鉄骨架構の建方に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. スライド工法は、移動構台上で所定の部分の屋根鉄骨を組み立てた後、構台を移動させ、順次架構を構築する工法である。
2. 総足場工法は、必要な高さまで足場を組み立てて、作業用の構台を全域にわたり設置し、架構を構築する工法である。
3. リフトアップ工法は、地上又は構台上で組み立てた屋根架構を、先行して構築した構造体を支えとして、ジャッキ等により引き上げていく工法である。
4. ブロック工法は、地組みした所定の大きさのブロックを、クレーン等で吊り上げて架構を構築する工法である。

[No. 32] 木質軸組構法に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 1 階及び 2 階の上下同位置に構造用面材の耐力壁を設けるため、胴差し部において、構造用面材相互間に、6 mm のあきを設けた。
2. 接合に用いるラグスクリューの締付けは、先孔をあけ、スパナを用いて回しながら行った。
3. 接合金物のボルトの締付けは、座金が木材へ軽くめり込む程度とし、工事中、木材の乾燥収縮により緩んだナットは締め直した。
4. 接合金物のボルトの孔あけは、ねじの呼びにかかわらず公称軸径に 1.5 mm を加えたものとした。

[No. 33] 揚重運搬機械に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 建設用リフトは、人及び荷を運搬することを目的とするエレベーターで、土木、建築等の工事の作業で使用される。
2. 建設用リフトは、組立て又は解体の作業を行う場合、作業を指揮する者を選任して、その者の指揮のもとで作業を実施する。
3. 移動式クレーンは、10 分間の平均風速が 10 m/s 以上の場合、作業を中止する。
4. 移動式クレーンは、旋回範囲内に 6,600 V の配電線がある場合、配電線から安全距離を 2 m 以上確保する。

※ 問題番号[No. 34]～[No. 45]までの 12 問題のうちから、5 問題を選択し、解答してください。

[No. 34] 合成高分子系ルーフィングシート防水に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 塩化ビニル樹脂系シート防水において、シート相互の接合にクロロプレンゴム系の接着剤を用いた。
2. 塩化ビニル樹脂系シート防水において、接合部のシートの重ね幅は、幅方向、長手方向とも 40 mm 以上とした。
3. 加硫ゴム系シート防水接着工法において、防水層立上り端部の処理は、テープ状シール材を張り付けた後にルーフィングシートを張り付け、末端部は押さえ金物で固定し、不定形シール材を充填した。
4. 加硫ゴム系シート防水接着工法において、平場の接合部のシートの重ね幅は 100 mm 以上とし、立上りと平場との重ね幅は 150 mm 以上とした。

[No. 35] シーリング工事に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. ALC など表面強度が小さい被着体に、低モジュラスのシーリング材を用いた。
2. ボンドブレーカーは、シリコン系シーリング材を充填するため、シリコンコーティングされたテープを用いた。
3. 先打ちしたポリサルファイド系シーリング材の硬化後に、変成シリコン系シーリング材を打ち継いだ。
4. プライマーの塗布及びシーリング材の充填時に、被着体が 5℃ 以下になるおそれが生じたため、作業を中止した。

[No. 36] セメントモルタルによる壁タイル後張り工法に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. モザイクタイル張りの張付けモルタルは、2 度塗りとし、総塗厚を 3 mm 程度とした。
2. マスク張りの張付けモルタルは、ユニットタイル裏面に厚さ 4 mm のマスク板をあて、金ごてで塗り付けた。
3. 改良積上げ張りの張付けモルタルは、下地モルタル面に塗厚 4 mm 程度で塗り付けた。
4. 密着張りの化粧目地詰めは、タイル張付け後、24 時間以上経過したのち、張付けモルタルの硬化を見計らって行った。

[No. 37] 金属板葺屋根工事に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 下葺きのルーフィング材は、上下（流れ方向）の重ね幅を 100 mm、左右（長手方向）の重ね幅を 200 mm とした。
2. 塗装溶融亜鉛めっき鋼板を用いた金属板葺きの留付け用のドリルねじは、亜鉛めっき製品を使用した。
3. 心木なし瓦棒葺の通し吊子の鉄骨母屋への取付けは、平座金を付けたドリルねじで、下葺、野地板を貫通させ母屋に固定した。
4. 平葺の吊子は、葺板と同種同厚の材とし、幅 20 mm、長さ 50 mm とした。

[No. 38] 軽量鉄骨壁下地に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 鉄骨梁に取り付く上部ランナーは、耐火被覆工事の後、あらかじめ鉄骨梁に取り付けられた先付け金物に溶接で固定した。
2. コンクリート壁に添え付くスタッドは、上下のランナーに差し込み、コンクリート壁に打込みピンで固定した。
3. スタッドは、上部ランナーの上端とスタッド天端との隙間が 15 mm となるように切断した。
4. 上下のランナーの間隔が 3 m の軽量鉄骨壁下地に取り付ける振れ止めの段数は、2 段とした。

[No. 39] 防水形合成樹脂エマルション系複層仕上塗材（防水形複層塗材 E）仕上げに関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 下塗材は、 0.2 kg/m^2 を 1 回塗りで、均一に塗り付けた。
2. 主材の基層塗りは、 1.2 kg/m^2 を 1 回塗りで、下地を覆うように塗り付けた。
3. 主材の模様塗りは、 1.0 kg/m^2 を 1 回塗りで、見本と同様の模様になるように塗り付けた。
4. 上塗材は、 0.3 kg/m^2 を 2 回塗りで、色むらが生じないように塗り付けた。

[No. 40] アルミニウム製建具工事に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 表面処理が着色陽極酸化皮膜のアルミニウム製部材は、モルタルに接する箇所の耐アルカリ性塗料塗りを省略した。
2. 外部建具周囲の充填モルタルは、NaCl 換算 0.04 %（質量比）まで除塩した海砂を使用した。
3. 建具枠のアンカーは、両端から逃げた位置から、間隔を 500 mm 以下で取り付けた。
4. 水切りと下枠との取合いは、建具枠まわりと同一のシーリング材を使用した。

[No. 41] コンクリート素地面の塗装工事に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 常温乾燥形ふっ素樹脂エナメル塗りにおいて、塗料を素地に浸透させるため、下塗りはローラーブラシ塗りとした。
2. 合成樹脂エマルジョンペイント塗りにおいて、屋内の水がかり部分は、塗料の種類を 1 種とした。
3. アクリル樹脂系非水分散形塗料塗りにおいて、中塗りを行う前に研磨紙 P 80 を用いて研磨した。
4. つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗りにおいて、最終養生時間を 48 時間とした。

[No. 42] 合成樹脂塗床に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. エポキシ樹脂系モルタル塗床の防滑仕上げは、トップコート 1 層目の塗布と同時に骨材を散布した。
2. エポキシ樹脂系コーティング工法のベースコートは、コーティング材を木ごてで塗り付けた。
3. プライマーは、下地の吸込みが激しい部分に、硬化後、再塗布した。
4. 弾性ウレタン樹脂系塗床材塗りは、塗床材を床面に流し、金ごてで平滑に塗り付けた。

[No. 43] 壁のせっこうボード張りに関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. ボードの下端部は、床面からの水分の吸上げを防ぐため、床面から 10 mm 程度浮かして張り付けた。
2. テーパーエッジボードの突付けジョイント部の目地処理における上塗りは、ジョイントコンパウンドを幅 200 ～ 250 mm 程度に塗り広げて平滑にした。
3. 軽量鉄骨壁下地にボードを直接張り付ける際、ボード周辺部を固定するドリリングタッピンねじの位置は、ボードの端部から 5 mm 程度内側とした。
4. 木製壁下地にボードを直接張り付ける際、ボード厚の 3 倍程度の長さの釘を用いて、釘頭が平らに沈むまで打ち込んだ。

[No. 44] 外壁の押出成形セメント板張りに関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. パネルの割付けにおいて、使用するパネルの最小幅は 300 mm とした。
2. パネル取付け金物（Z クリップ）は、下地鋼材に 30 mm のかかりしろを確保して取り付けた。
3. 横張り工法のパネルは、積上げ枚数 5 枚ごとに構造体に固定した自重受け金物で受けた。
4. 縦張り工法のパネルは、層間変形に対してロッキングにより追従するため、縦目地を 8 mm、横目地を 15 mm とした。

[No. 45] 鉄筋コンクリート造の外壁改修工事に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. コンクリート打放し仕上げにおいて、コンクリートに生じた幅が 0.5 mm の挙動のおそれのあるひび割れ部分は、軟質形エポキシ樹脂を用いた樹脂注入工法で改修した。
2. コンクリート打放し仕上げにおいて、コンクリートのはく落が比較的大きく深い欠損部分は、ポリマーセメントモルタル充填工法で改修した。
3. 小口タイル張り仕上げにおいて、1 箇所当たりの下地モルタルと下地コンクリートとの浮き面積が 0.2 m^2 の部分は、アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法で改修した。
4. 小口タイル張り仕上げにおいて、タイル陶片のみの浮きの部分は、浮いているタイルを無振動ドリルで穿孔して、注入口付アンカーピンニングエポキシ樹脂注入タイル固定工法で改修した。

※ 問題番号 [No. 46]～[No. 50]までの 5 問題は、全問題を解答してください。

[No. 46] 仮設計画に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 塗料や溶剤等の保管場所は、管理をしやすくするため、資材倉庫の一面を不燃材料で間仕切り、設ける計画とした。
2. ガスボンベ類の貯蔵小屋は、通気を良くするため、壁の 1 面を開口とし、他の 3 面は上部に開口部を設ける計画とした。
3. 工事で発生した残材を高さ 3 m の箇所から投下するため、ダストシュートを設けるとともに、監視人を置く計画とした。
4. 前面道路に設置する仮囲いは、道路面を傷めないようにするため、ベースを H 形鋼とする計画とした。

[No. 47] 仮設設備の計画に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 工事用の給水設備において、水道本管からの供給水量の増減に対する調整のため、2 時間分の使用水量を確保できる貯水槽を設置する計画とした。
2. 工事用の溶接用ケーブル以外の屋外に使用する移動電線で、使用電圧が 300 V のものは、1 種キャブタイヤケーブルを使用する計画とした。
3. 作業員の仮設便所において、男性用大便所の便房の数は、同時に就業する男性作業員が 60 人ごとに、1 個設置する計画とした。
4. 工事用の照明設備において、普通の作業を行う作業面の照度は、150 ルクスとする計画とした。

[No. 48] 施工計画に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 鉄骨工事において、建方精度を確保するため、建方の進行とともに、小区画に区切って建入れ直しを行う計画とした。
2. 大規模、大深度の工事において、工期短縮のため、地下躯体工事と並行して上部躯体を施工する逆打ち工法とする計画とした。
3. 鉄筋工事において、工期短縮のため、柱や梁の鉄筋を先組み工法とし、継手は機械式継手とする計画とした。
4. 鉄骨工事において、施工中の粉塵の飛散をなくし、被覆厚さの管理を容易にするため、耐火被覆はロックウール吹付け工法とする計画とした。

[No. 49] 躯体工事の施工計画に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 場所打ちコンクリート杭工事において、安定液を使用したアースドリル工法の1次孔底処理は、底ごらいバケットにより行うこととした。
2. 鉄骨工事において、板厚が13 mmの部材の高力ボルト用の孔あけ加工は、せん断孔あけとすることとした。
3. ガス圧接継手において、鉄筋冷間直角切断機を用いて圧接当日に切断した鉄筋の圧接端面は、グラインダー研削を行わないこととした。
4. 土工事において、透水性の悪い山砂を用いた埋戻しは、埋戻し厚さ300 mmごとにランマーで締め固めながら行うこととした。

[No. 50] 仕上工事の施工計画に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 改質アスファルトシート防水トーチ工法において、露出防水用改質アスファルトシートの重ね部は、砂面をあぶって砂を沈め、100 mm 重ね合わせることとした。
2. メタルカーテンウォール工事において、躯体付け金物は、鉄骨躯体の製作に合わせてあらかじめ鉄骨製作工場に取り付けることとした。
3. タイル工事において、改良圧着張り工法の張付けモルタルの1回の塗付け面積は、タイル工1人当たり4 m²とすることとした。
4. 塗装工事において、亜鉛めっき鋼面の化成皮膜処理による素地ごしらは、りん酸塩処理とすることとした。

試 験 地	受 験 番 号	氏 名

1 建学(後)

受験地変更者は上欄のほか、本日の受験地と仮受験番号を記入してください。

本日の受験地..... 仮受験番号 仮一.....

令和 2 年度

1 級建築施工管理技術検定試験

学科試験問題（午後の部）

令和 2 年 10 月 18 日(日)

[注 意 事 項]

1. ページ数は、表紙を入れて **14 ページ**です。
2. 試験時間は、**14 時 15 分から 16 時 15 分**です。
3. 問題の解答の仕方は、次によってください。
 - イ. [No. 51]～[No. 70]までの **20 問題**は、**全問題を解答**してください。
 - ロ. [No. 71]～[No. 82]までの **12 問題**のうちから、**8 問題を選択し、解答**してください。
4. 選択問題は、解答数が指定数を超えた場合、減点となりますから注意してください。
5. 解答は、別の**解答用紙**に、[HB]の**黒鉛筆**か**黒シャープペンシル**で記入してください。
それ以外の**ボールペン・サインペン・色鉛筆**などを使用した場合は、採点されません。
6. 問題は、**四肢択一式**です。正解と思う肢の番号を次の例に従って塗りつぶしてください。
それ以外の場合は、採点されないことがあります。

マーク例 ● 塗りつぶし

7. マークを訂正する場合は、消しゴムできれいに消して訂正してください。
8. 解答用紙は、雑書きしたり、汚したり、折り曲げたりしないでください。
9. この問題用紙は、計算等に使用しても差し支えありません。
10. この問題用紙は、午後の部の試験終了時刻まで在席した場合に限り、持ち帰りを認めます。
途中退席する場合は、持ち帰りできません。

※ 問題番号[No. 51]～[No. 70]までの 20 問題は、全問題を解答してください。

[No. 51] 工事現場における材料の保管に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 押出成形セメント板は、平坦で乾燥した場所に平積みとし、積上げ高さを 1 m までとして保管した。
2. 板ガラスは、車輪付き裸台で搬入し、できるだけ乾燥した場所にそのまま保管した。
3. 長尺のビニル床シートは、屋内の乾燥した場所に直射日光を避けて縦置きにして保管した。
4. ロール状に巻いたカーペットは、屋内の平坦で乾燥した場所に、4 段までの俵積みにして保管した。

[No. 52] 建設業者が作成する建設工事の記録等に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 発注者から直接工事を請け負った建設業者が作成した発注者との打合せ記録のうち、発注者と相互に交付したものではないものは、保存しないこととした。
2. 承認あるいは協議を行わなければならない事項について、建設業者はそれらの経過内容の記録を作成し、監理者と双方で確認したものを監理者に提出することとした。
3. 設計図書に定められた品質が証明されていない材料について、建設業者は現場内への搬入後に試験を行い、記録を整備することとした。
4. 既製コンクリート杭工事の施工サイクルタイム記録、電流計や根固め液の記録等は、発注者から直接工事を請け負った建設業者が保存する期間を定め、当該期間保存することとした。

[No. 53] 工程管理に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. バーチャート手法は、前工程の遅れによる後工程への影響を理解しやすい。
2. 工事の進捗度の把握には、時間と出来高の関係を示した S チャートが用いられる。
3. 間接費は、一般に工期の長短に相関して増減する。
4. どんなに直接費を投入しても、ある限度以上には短縮できない時間をクラッシュタイムという。

[No. 54] 工程計画の立案に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 工程計画には、大別して積上方式と割付方式とがあり、工期が制約されている場合は、割付方式を採用することが多い。
2. 算出した工期が指定工期を超える場合は、クリティカルパス上に位置する作業について、作業方法の変更や作業員増員等を検討する。
3. 作業員、施工機械、資機材等の供給量のピークが一定の量を超えないように山崩しを行うことで、工期を短縮できる。
4. 作業員、施工機械、資機材等の供給量が均等になるように、山均しを意図したシステムティックな工法の導入を検討する。

[No. 55] タクト手法に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 作業を繰り返し行うことによる習熟効果によって生産性が向上するため、工事途中でのタクト期間の短縮や作業員数の削減を検討する。
2. タクト手法は、同一設計内容の基準階を多く有する高層建築物の仕上工事の工程計画手法として、適している。
3. 設定したタクト期間では終わることができない一部の作業については、当該作業の作業期間をタクト期間の整数倍に設定する。
4. 各作業が独立して行われているため、1つの作業に遅れがあってもタクトを構成する工程全体への影響は小さい。

[No. 56] ネットワーク工程表に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. ディペンデントフロートは、後続作業のトータルフロートに影響を及ぼすようなフロートである。
2. フリーフロートは、その作業の中で使い切ってしまうと後続作業のフリーフロートに影響を及ぼすようなフロートである。
3. クリティカルパスは、トータルフロートが0の作業を開始結合点から終了結合点までつないだものである。
4. トータルフロートは、当該作業の最遅終了時刻（LFT）から当該作業の最早終了時刻（EFT）を差し引いて求められる。

[No. 57] 品質管理に関する記述として、**最も適当なもの**はどれか。

1. 品質管理は、計画段階より施工段階で検討するほうが、より効果的である。
2. 品質確保のための作業標準を作成し、作業標準どおり行われているか管理を行う。
3. 工程（プロセス）の最適化より検査を厳しく行うことのほうが、優れた品質管理である。
4. 品質管理は、品質計画の目標のレベルにかかわらず、緻密^{ちみつ}な管理を行う。

[No. 58] 品質管理の用語に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 目標値とは、仕様書で述べられる、望ましい又は基準となる特性の値のことをいう。
2. ロットとは、等しい条件下で生産され、又は生産されたと思われるものの集まりをいう。
3. かたよりとは、観測値又は測定結果の大きさが揃っていないことをいう。
4. トレーサビリティとは、対象の履歴、適用又は所在を追跡できることをいう。

[No. 59] 建築施工の品質を確保するための管理値に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 鉄骨工事において、一般階の柱の階高寸法は、梁仕口上フランジ上面間で測り、その管理許容差は、 $\pm 3 \text{ mm}$ とした。
2. コンクリート工事において、ビニル床シート下地のコンクリート面の仕上りの平坦さは、3 m につき 7 mm 以下とした。
3. カーテンウォール工事において、プレキャストコンクリートカーテンウォール部材の取付け位置の寸法許容差のうち、目地の幅は、 $\pm 5 \text{ mm}$ とした。
4. 断熱工事において、硬質吹付けウレタンフォーム断熱材の吹付け厚さの許容差は、 $\pm 5 \text{ mm}$ とした。

[No. 60] 品質管理における検査に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 中間検査は、不良なロットが次工程に渡らないよう事前に取り除くことによって、損害を少なくするために行う検査である。
2. 間接検査は、購入者側が受入検査を行うことによって、供給者側の試験を省略する検査である。
3. 非破壊検査は、品物を試験してもその商品価値が変わらない検査である。
4. 全数検査は、工程の品質状況が悪いために不良率が大きく、決められた品質水準に修正しなければならない場合に適用される検査である。

[No. 61] 普通コンクリートの試験及び検査に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. スランプ 18 cm のコンクリートの荷卸し地点におけるスランプの許容差は、 ± 2.5 cm とした。
2. 1 回の構造体コンクリート強度の判定に用いる供試体は、複数の運搬車のうちの 1 台から採取した試料により、3 個作製した。
3. 構造体コンクリート強度の判定は、材齢 28 日までの平均気温が 20°C であったため、工事現場における水中養生供試体の 1 回の試験結果が調合管理強度以上のものを合格とした。
4. 空気量 4.5 % のコンクリートの荷卸し地点における空気量の許容差は、 ± 1.5 % とした。

[No. 62] 壁面の陶磁器質タイル張り工事における試験に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 引張接着力試験の試験体の個数は、 300 m^2 ごと及びその端数につき 1 個以上とした。
2. 接着剤張りのタイルと接着剤の接着状況の確認は、タイル張り直後にタイルをはがして行った。
3. セメントモルタル張りの引張接着力試験は、タイル張り施工後、2 週間経過してから行った。
4. 二丁掛けタイル張りの引張接着力試験は、タイルを小口平の大きさに切断した試験体で行った。

[No. 63] 鉄筋コンクリート造建築物の解体工事における振動、騒音対策に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 内部スパン周りを先に解体し、外周スパンを最後まで残すことにより、解体する予定の躯体を防音壁として利用した。
2. 周辺環境保全に配慮し、振動や騒音が抑えられるコンクリートカッターを用いる切断工法とした。
3. 振動レベルの測定器の指示値が周期的に変動したため、変動ごとに指示値の最大値と最小値の平均を求め、そのなかの最大の値を振動レベルとした。
4. 転倒工法による壁の解体工事において、先行した解体工事で発生したガラは、転倒する位置に敷くクッション材として利用した。

[No. 64] 労働災害に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 労働損失日数は、一時労働不能の場合、暦日による休業日数に $\frac{300}{365}$ を乗じて算出する。
2. 労働災害における労働者とは、所定の事業又は事務所に使用される者で、賃金を支払われる者をいう。
3. 度数率は、災害発生の頻度を表すもので、100 万延べ実労働時間当たりの延べ労働損失日数を示す。
4. 永久一部労働不能で労働基準監督署から障がい等級が認定された場合、労働損失日数は、その等級ごとに定められた日数となる。

[No. 65] 市街地の建築工事における公衆災害防止対策に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 工事現場周囲の道路に傾斜があったため、高さ 3 m の鋼板製仮囲いの下端は、隙間を土台コンクリートで塞いだ。
2. 飛来落下物による歩行者への危害防止等のために設置した歩道防護構台は、構台上で雨水処理し、安全のために照明を設置した。
3. 鉄筋コンクリート造の建物の解体工事において、防音と落下物防護のため、足場の外側面に防音パネルを設置した。
4. 外部足場に設置した防護柵の敷板は、厚さ 1.6 mm の鉄板を用い、敷板どうしの隙間は 3 cm 以下とした。

[No. 66] 作業主任者の職務として、「労働安全衛生法」上、**定められていないもの**はどれか。

1. 型枠支保工の組立て等作業主任者は、作業中、要求性能墜落制止用器具等及び保護帽の使用状況を監視すること。
2. 有機溶剤作業主任者は、作業に従事する労働者が有機溶剤により汚染され、又はこれを吸入しないように、作業の方法を決定し、労働者を指揮すること。
3. 建築物等の鉄骨の組立て等作業主任者は、作業の方法及び順序を作業計画として定めること。
4. はい作業主任者は、はい作業をする箇所を通行する労働者を安全に通行させるため、その者に必要な事項を指示すること。

[No. 67] 足場に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 単管足場の建地を鋼管 2 本組とする部分は、建地の最高部から測って 3l m を超える部分とした。
2. くさび緊結式足場の支柱の間隔は、桁行方向 2 m、梁間方向 1.2 m とした。
3. 移動式足場の作業床の周囲は、高さ 90 cm で中棧付きの丈夫な手すり及び高さ 10 cm の幅木を設置した。
4. 高さが 8 m のくさび緊結式足場の壁つなぎは、垂直方向 5 m、水平方向 5.5 m の間隔とした。

[No. 68] 事業者が行わなければならない点検に関する記述として、「労働安全衛生規則」上、**誤っているもの**はどれか。

1. 作業構台における作業を行うときは、その日の作業を開始する前に、作業を行う箇所に設けた手すり等及び中棧等の取り外し及び脱落の有無について点検を行わなければならない。
2. 高所作業車を用いて作業を行うときは、その日の作業を開始する前に、制動装置、操作装置及び作業装置の機能について点検を行わなければならない。
3. つり足場における作業を行うときは、その日の作業を開始する前に、脚部の沈下及び滑動の状態について点検を行わなければならない。
4. 繊維ロープを貨物自動車の荷掛けに使用するときは、その日の使用を開始する前に、繊維ロープの点検を行わなければならない。

[No. 69] ゴンドラを使用して作業を行う場合、事業者の講ずべき措置として、「ゴンドラ安全規則」上、**誤っているもの**はどれか。

1. ゴンドラの操作の業務に就かせる労働者は、当該業務に係る技能講習を修了した者でなければならない。
2. ゴンドラを使用して作業するときは、原則として、1 月以内ごとに 1 回自主検査を行わなければならない。
3. ゴンドラを使用して作業を行う場所については、当該作業を安全に行うため必要な照度を保持しなければならない。
4. ゴンドラについて定期自主検査を行ったときは、その結果を記録し、これを 3 年間保存しなければならない。

[No. 70] 酸素欠乏危険作業に労働者を従事させるときの事業者の責務として、「酸素欠乏症等防止規則」上、誤っているものはどれか。

1. 酸素欠乏危険作業については、所定の技能講習を修了した者のうちから、酸素欠乏危険作業主任者を選任しなければならない。
2. 酸素欠乏危険作業に労働者を就かせるときは、当該労働者に対して酸素欠乏危険作業に係る特別の教育を行わなければならない。
3. 酸素欠乏危険場所で空気中の酸素の濃度測定を行ったときは、その記録を3年間保存しなければならない。
4. 酸素欠乏危険場所では、原則として、空気中の酸素の濃度を15 % 以上に保つように換気しなければならない。

※ 問題番号[No. 71]～[No. 82]までの12問題のうちから、8問題を選択し、解答してください。

[No. 71] 建築確認等の手続きに関する記述として、「建築基準法」上、誤っているものはどれか。

1. 防火地域及び準防火地域内において、建築物を増築しようとする場合、その増築部分の床面積の合計が10 m²以内のときは、建築確認を受ける必要はない。
2. 延べ面積が150 m²の一戸建ての住宅の用途を変更して旅館にしようとする場合、建築確認を受ける必要はない。
3. 鉄筋コンクリート造3階建ての共同住宅において、2階の床及びこれを支持する梁に鉄筋を配置する特定工程に係る工事を終えたときは、中間検査の申請をしなければならない。
4. 確認済証の交付を受けた建築物の完了検査を受けようとする建築主は、工事が完了した日から4日以内に建築主事に到達するように、検査の申請をしなければならない。

[No. 72] 次の記述のうち、「建築基準法」上、誤っているものはどれか。

1. 建築主は、延べ面積が1,000 m²を超え、かつ、階数が2以上の建築物を新築する場合、一級建築士である工事監理者を定めなければならない。
2. 特定行政庁は、飲食店に供する床面積が200 m²を超える建築物の劣化が進み、そのまま放置すれば著しく保安上危険となると認める場合、相当の猶予期限を付けて、所有者に対し除却を勧告することができる。
3. 建築監視員は、建築物の工事施工者に対して、当該工事の施工の状況に関する報告を求めることができる。
4. 建築主事は、建築基準法令の規定に違反した建築物に関する工事の請負人に対して、当該工事の施工の停止を命じることができる。

[No. 73] 避難施設等に関する記述として、「建築基準法」上、誤っているものはどれか。

1. 小学校には、非常用の照明装置を設けなければならない。
2. 集会場で避難階以外の階に集会室を有するものは、その階から避難階又は地上に通ずる2以上の直通階段を設けなければならない。
3. 映画館の客用に供する屋外への出口の戸は、内開きとしてはならない。
4. 高さ31 mを超える建築物には、原則として、非常用の昇降機を設けなければならない。

[No. 74] 建設業の許可に関する記述として、「建設業法」上、**誤っているものはどれか。**

1. 建設業の許可を受けようとする者は、許可を受けようとする建設業に係る建設工事に関して10年の実務の経験を有する者を、一般建設業の営業所に置く専任の技術者とすることができる。
2. 建設業の許可を受けようとする者は、複数の都道府県の区域内に営業所を設けて営業をしようとする場合、それぞれの都道府県知事の許可を受けなければならない。
3. 内装仕上工事など建築一式工事以外の工事を請け負う建設業者であっても、特定建設業の許可を受けることができる。
4. 特定建設業の許可を受けた者でなければ、発注者から直接請け負った建設工事を施工するために、建築工事業にあっては下請代金の額の総額が6,000万円以上となる下請契約を締結してはならない。

[No. 75] 請負契約に関する記述として、「建設業法」上、**誤っているものはどれか。**

1. 注文者は、請負人に対して、建設工事の施工につき著しく不相当と認められる下請負人があるときは、あらかじめ注文者の書面等による承諾を得て選定した下請負人である場合を除き、その変更を請求することができる。
2. 注文者は、工事一件の予定価格が5,000万円以上である工事の請負契約の方法が随意契約による場合であっても、契約の締結までに建設業者が当該建設工事の見積りをするための期間は、原則として、15日以上を設けなければならない。
3. 元請負人は、その請け負った建設工事を施工するために必要な工程の細目、作業方法その他元請負人において定めるべき事項を定めようとするときは、あらかじめ、注文者の意見をきかなければならない。
4. 請負人は、請負契約の履行に関し工事現場に現場代理人を置く場合に、注文者の承諾を得て、現場代理人に関する事項を、省令で定める情報通信の技術を利用する方法で通知することができる。

[No. 76] 工事現場に置く技術者に関する記述として、「建設業法」上、**誤っているものはどれか。**

1. 発注者から直接建築一式工事を請け負った特定建設業者は、下請契約の総額が6,000万円以上の工事を施工する場合、監理技術者を工事現場に置かなければならない。
2. 工事一件の請負代金の額が6,000万円である診療所の建築一式工事において、工事の施工の技術上の管理をつかさどるものは、工事現場ごとに専任の者でなければならない。
3. 専任の主任技術者を必要とする建設工事のうち、密接な関係のある2以上の建設工事を同一の建設業者が同一の場所又は近接した場所において施工するものについては、同一の専任の主任技術者がこれらの建設工事を管理することができる。
4. 発注者から直接防水工事を請け負った特定建設業者は、下請契約の総額が3,500万円の工事を施工する場合、主任技術者を工事現場に置かなければならない。

[No. 77] 労働契約に関する記述として、「労働基準法」上、**誤っているものはどれか。**

1. 使用者は、労働者の退職の場合において、請求があった日から、原則として、7日以内に賃金を支払い、労働者の権利に属する金品を返還しなければならない。
2. 満60歳以上の労働者との間に締結される労働契約は、契約期間の定めのないものを除き、一定の事業の完了に必要な期間を定めるもののほかは、5年を超える期間について締結してはならない。
3. 使用者は、労働者が業務上負傷し、休業する期間とその後30日間は、やむを得ない事由のために事業の継続が不可能となった場合においても解雇してはならない。
4. 使用者は、試の使用期間中の者で14日を超えて引き続き使用されるに至った者を解雇しようとする場合、原則として、少なくとも30日前にその予告をしなければならない。

[No. 78] 建設業の事業場における安全衛生管理体制に関する記述として、「労働安全衛生法」上、**誤っているものはどれか。**

1. 統括安全衛生責任者を選任すべき特定元方事業者は、元方安全衛生管理者を選任しなければならない。
2. 安全衛生責任者は、安全管理者又は衛生管理者の資格を有する者でなければならない。
3. 統括安全衛生責任者は、その事業の実施を統括管理する者でなければならない。
4. 元方安全衛生管理者は、その事業場に専属の者でなければならない。

[No. 79] 労働者の就業に当たっての措置に関する記述として、「労働安全衛生法」上、正しいものはどれか。

1. 事業者は、従事する業務に関する安全又は衛生のため必要な事項の全部又は一部に関し十分な知識及び技能を有していると認められる労働者については、当該事項についての雇入れ時の安全衛生教育を省略することができる。
2. 就業制限に係る業務に就くことができる者が当該業務に従事するときは、これに係る免許証その他その資格を証する書面の写しを携帯していなければならない。
3. 元方安全衛生管理者は、作業場において下請負業者が雇入れた労働者に対して、雇入れ時の安全衛生教育を行わなければならない。
4. 事業者は、作業主任者の選任を要する作業において、新たに職長として職務に就くことになった作業主任者について、法令で定められた安全又は衛生のための教育を実施しなければならない。

[No. 80] 「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」上、特定建設資材を用いた建築物等の解体工事又は新築工事等のうち、分別解体等をしなければならない建設工事に該当しないものはどれか。

1. 建築物の増築工事であって、当該工事に係る部分の床面積の合計が 500 m^2 の工事
2. 建築物の大規模な修繕工事であって、請負代金の額が 8,000 万円の工事
3. 建築物の解体工事であって、当該工事に係る部分の床面積の合計が 80 m^2 の工事
4. 擁壁の解体工事であって、請負代金の額が 500 万円の工事

[No. 81] 「騒音規制法」上、指定地域内における特定建設作業の実施の届出に関する記述として、
誤っているものはどれか。

ただし、作業はその作業を開始した日に終わらないものとする。

1. さく岩機を使用する作業であって、作業地点が連続的に移動し、1日における当該作業に係る2地点間の距離が50mを超える作業は、特定建設作業の実施の届出をしなければならない。
2. さく岩機の動力として使用する作業を除き、電動機以外の原動機の定格出力が15kW以上の空気圧縮機を使用する作業は、特定建設作業の実施の届出をしなければならない。
3. 環境大臣が指定するものを除き、原動機の定格出力が40kW以上のブルドーザーを使用する作業は、特定建設作業の実施の届出をしなければならない。
4. 環境大臣が指定するものを除き、原動機の定格出力が80kW以上のバックホウを使用する作業は、特定建設作業の実施の届出をしなければならない。

[No. 82] 貨物自動車に分割できない資材を積載して運転する際に、「道路交通法」上、当該車両の出発地を管轄する警察署長の許可を必要とするものはどれか。

ただし、貨物自動車は、軽自動車を除くものとする。

1. 長さ11mの自動車に、車体の前後に0.5mずつはみ出す長さ12mの資材を積載して運転する場合
2. 荷台の高さが1mの自動車に、高さ2.7mの資材を積載して運転する場合
3. 幅2.2mの自動車に、車体の左右に0.1mずつはみ出す幅2.4mの資材を積載して運転する場合
4. 積載された資材を看守するため、必要な最小限度の人員として1名を荷台に乗車させて運転する場合

令和２年度 １級建築施工管理技術検定(学科)試験 正答肢

(午前の部)

問題No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
正答肢	2	4	4	1	2	4	1	3	3	3
問題No.	11	12	13	14	15	1 5 問題のうち 1 2 問題を選択し解答				
正答肢	2	1	3	1	4					

問題No.	16	17	18	19	20	5 問題は、全問解答				
正答肢	1	1	1	2	4					

問題No.	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
正答肢	4	2	2	4	3	2	4	2	2	3
問題No.	31	32	33	1 3 問題のうち 5 問題を選択し解答						
正答肢	1	4	1							

問題No.	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43
正答肢	1	2	3	4	3	2	1	3	2	3
問題No.	44	45	1 2 問題のうち 5 問題を選択し解答							
正答肢	3	2								

問題No.	46	47	48	49	50	5 問題は、全問解答				
正答肢	1	2	4	2	3					

(午後の部)

問題No.	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
正答肢	4	3	1	3	4	2	2	3	4	2
問題No.	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70
正答肢	2	1	3	3	4	3	2	3	1	4
2 0 問題は、全問解答										

問題No.	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80
正答肢	1	4	1	2	3	2	3	2	1	2
問題No.	81	82	1 2 問題のうち 8 問題を選択し解答							
正答肢	1	3								

配点：82 問出題し、そのうち 60 問解答を要する試験であり、各問題 1 点、60 点満点です。